

別記様式（第2条関係）

会 議 結 果 報 告 書

令和7年8月26日

会議の名称	第5回志木市総合振興計画審議会
開催日時	令和7年8月7日（木） 14時00分～15時20分
開催場所	市役所3階 大会議室3-3
出席者職氏名	[委員] 星野 敦子会長、大村 相基副会長、 今村 弘志委員、岩澤 千恵子委員、竹前 榮二委員、 関口 清久委員、高橋 大輝委員、正能 武委員、 中村 勝義委員、碓 俊美委員、小笠原 順子委員、 久保 大地委員、白川 美津江委員、那須 博志委員、 松澤 真衣委員 （計15人）
欠席者職氏名	吉澤 富美夫委員、田中 満男委員、岡田 明彦委員、 大貫 結子委員、木下 武三委員、抜井 貴之委員、 松波 雪枝委員 （計 7人）
説明員職氏名	政策推進課 松田課長、柴谷主査、矢野主任 ランドブレイン株式会社 菅原、稲葉、三溝 （計 6人）
議 題	1 開会 2 議題 (1) 第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画）（案） （将来構想/前期実現計画/第三期志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略） (2) 志木市人口ビジョン（令和8年改訂版）（案） 3 閉会

結 果	議題（１）～（２）について、事務局より説明し、質疑応答を行った。 審議内容を踏まえて、市長に答申する。 （傍聴者１人）
事務局職員氏名	松井市長公室長、松田政策推進課長、柴谷政策推進課主査、矢野政策推進課主任
会議内容の記録（会議経過、結論等）	
１ 開会 ２ 議題 ・議題の説明に入る前に、傍聴者の有無について確認を行った。 →傍聴希望者あり（１名） （傍聴希望者入室） ・松田政策推進課長から（１）について説明し、内容について質疑応答を行った。 （１）第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画）（案）について （将来構想/前期実現計画/第三期志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略） （委員） 98 ページに目標値が載っているが、チェック機関は作るのか。 （事務局） 現在も将来ビジョンに掲げる目標値については、毎年度、政策推進課において関係各課に確認して進捗状況をチェックしている。まち・ひと・しごと創生総合戦略については、総合戦略会議という市民も加わる会議体に見ていただきながらの進捗管理となっている。将来ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略ともに市ホームページに KPI の進捗状況報告を掲載しているところである。 （委員） まちの将来像の「よりそう想い 広がる絆 いいね！がいっぱい 志木のまち」について、施策の柱１の基本的政策③では「みんなで助け合う、支え合い」とあるが、「寄り添う」という言葉が入っていない。「寄り添う」という言葉を基本的施策の説明文に入れた方が良いのではないかと。 （事務局） 福祉分野では計画等で「支え合う」という言葉が使われており、基本的施策でも「支え合い」という言葉を使っている。しかし、将来像については範囲が福祉分野に限らないことから、これまでの審議会の中で「寄り添う」という言葉が良	

いのではないか、ということになった。「寄り添う」は福祉的な支え合いだけを指すのではないという際に使用しているがいかがか。

(委員)

「支え合う」は物理的な支え合いという意味合いがあり、「寄り添う」だと気持ちに寄り添うというところかと思う。「寄り添う」は福祉的な言葉というよりか、他の施策にも使える言葉なので、「よりそう想い」という将来像として、エッセンスを施策の柱に浸透させていくイメージになるのではないか。

(会長)

全体に関わるキーワードとして「寄り添う」を使っているということで答申書に盛り込むこととする。

(委員)

将来像については答申書の中でも目立つ形にした方が良いと思う。

(委員)

資料2の20ページ、23ページのグラフについて、出典「国立社会保障・人口問題研究所」の表記はなくて良いのか。

(事務局)

推計人口は出典を記載することになるが、目標人口については社人研の推定人口を基にして独自に出した数値となるため記載しない想定である。

(会長)

他にあるか。特にないようであれば、質疑ご意見についてはここまでとする。いただいたご意見を答申書に反映して、市長に答申する。

3 閉会

備考 会議内容の記録には、発言者の立場を明記するとともに、発言の趣旨が容易に理解できるよう簡潔明瞭に記載すること。